

## 自動運転に関するアンケート調査 ～「Level IV Discovery」が自動運転の社会受容性に与える影響について～

損害保険ジャパン株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）は、自動運転サービス実証を支えるためのインシュアテックソリューション「Level IV Discovery<sup>※1</sup>」が、自動運転車の受容性向上に効果があるかを検証するため、自動運転に関するアンケート調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

### 1. 調査実施の背景

損保ジャパンは安心・安全な自動運転社会の実現を目指して、今までの「事故に備える損保」から「事故を防ぐ損保」への変革に挑戦しています。

その取り組みの一環として、2018年10月にSOMPOグループの株式会社プライムアシスタンス（取締役社長：徳岡 宏行、以下「プライムアシスタンス」）内に自動運転特有の事故・トラブルの研究を行う「コネクテッドサポートセンター」を開所しました。また、2019年2月には安心・安全な自動運転サービス実証を支えるためのインシュアテックソリューション「Level IV Discovery」の共同開発に向けて株式会社ティアフォーおよびアイサンテクノロジー株式会社と業務提携したことを発表しました。

2019年度からは「知の拠点あいち重点研究プロジェクト（近未来自動車技術開発プロジェクト）」<sup>※2</sup>（以下、本プロジェクト）にパートナー企業・大学<sup>※3</sup>と共に参加し、「Level IV Discovery」の開発を進め、2020年2月から全国の自治体向けにサービスの提供を開始しました。

このたび、「Level IV Discovery」が自動運転の受容性向上に効果があるかを検証するため、自動運転や実証実験に対する意識調査を目的としたアンケート調査を行いました。

### 2. 調査概要

（1）調査時期：2020年3月

（2）調査方法：インターネット調査

※回答の実効性を高めるため、イラストや動画を確認のうえ回答いただく質問を設けました。

（3）調査対象：全国在住の20歳から69歳までの一般生活者

（4）回答数：431名

〔性別内訳〕 男性：201名 女性：230名

〔年代内訳〕 20代：73名 30代：84名 40代：94名 50代：80名 60代以上：100名

〔地域別内訳〕 北海道：28名 東北：19名 関東：172名 中部：59名 近畿：104名

中国：10名 四国：9名 九州：30名

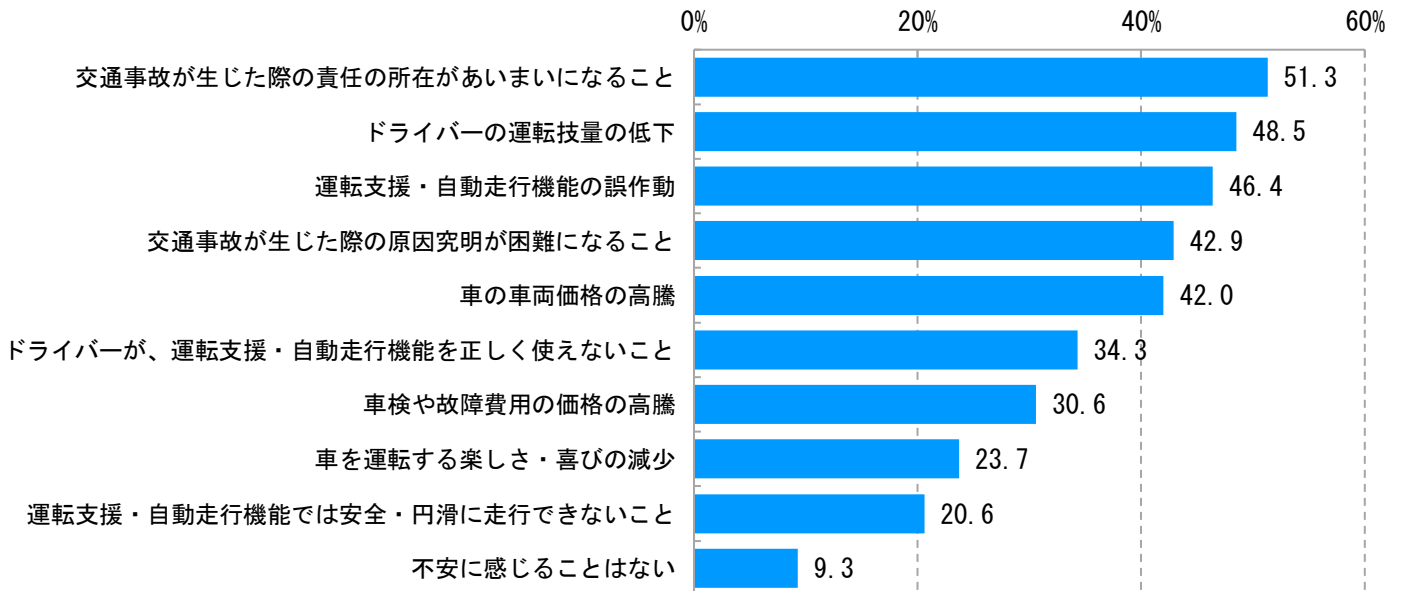
### 3. 調査結果

#### (1) 自動運転車の普及に対して感じる不安と、実証実験に関する受容性

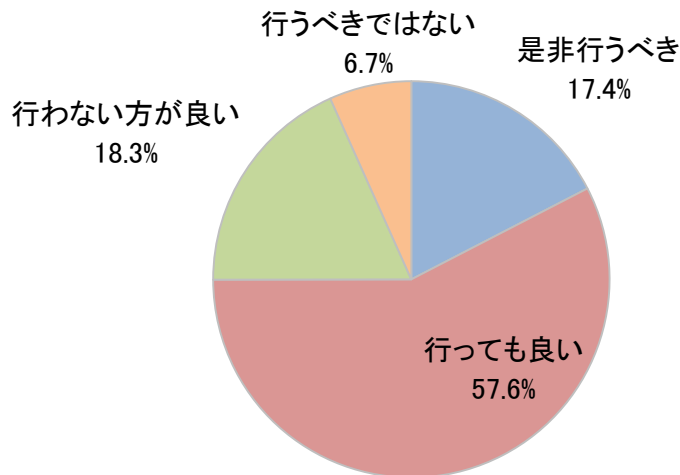
自動運転が世の中に普及した際に不安を感じる点と、自動運転の実用化を目指した実証実験が居住エリアで行われる場合の許容度について確認しました。

結果から、自動運転の普及にあたり、事故時の責任所在やシステムの誤作動に関する不安が大きいことが分かりました。また、公道での走行実験に関し、「是非行うべき」「行っても良い」という回答が多数を占める一方、4人に1人が「行わない方が良い」「行うべきではない」と回答しており、実証実験を行う地区の住人に理解を得ることの重要性が伺えます。

Q. 「システムが人の代わりに運転を行う自動走行機能を持つ車」が普及した場合にあなたが不安に感じる内容を教えてください。

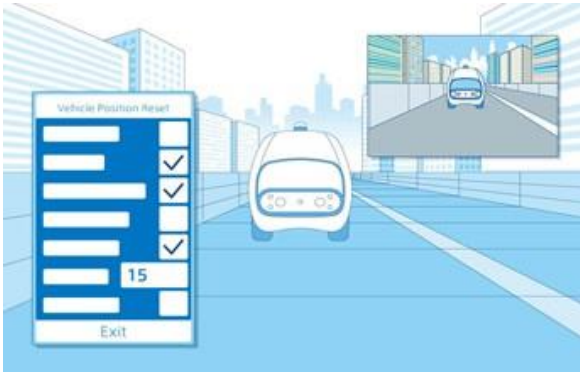


Q. あなたのお住まいのエリアで「自動運転車を用いた公道での実証実験」を行うとした場合、どの程度許容できますか。



(2) 自動運転向けリスクアセスメントサービスについて

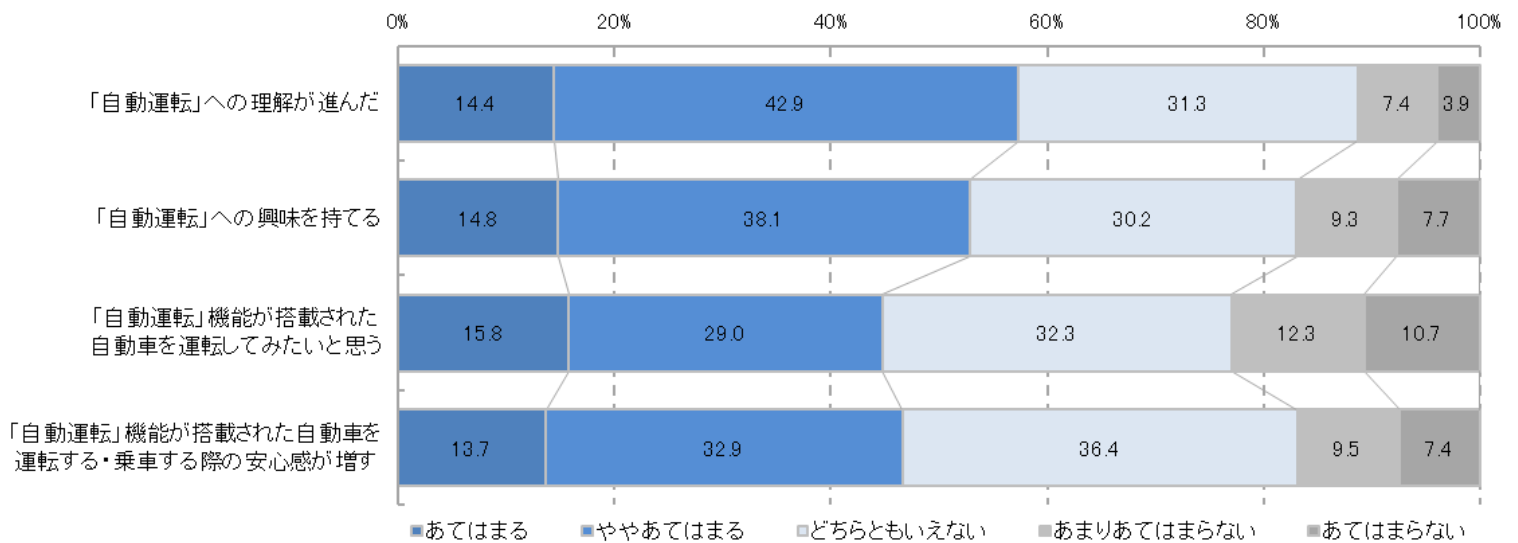
デジタル技術を活用したリスクアセスメントサービスに関するイラストを用いてサービスの印象を確認しました。自動運転への「理解が進んだ (57.3%)」や「興味を持てる (52.9%)」など、半数以上の方が前向きな反応を示しており、事前のリスク対策が自動運転の受容性の向上に効果があることが分かりました。



(リスクアセスメントサービスの内容)

三次元データや、過去に発生している事故データ等を活用して、自動運転車が走行する予定のルート进行调查し、危険度に応じた対策を講じるなど、自動運転走行の安全性を高めることを目的としたサービス。

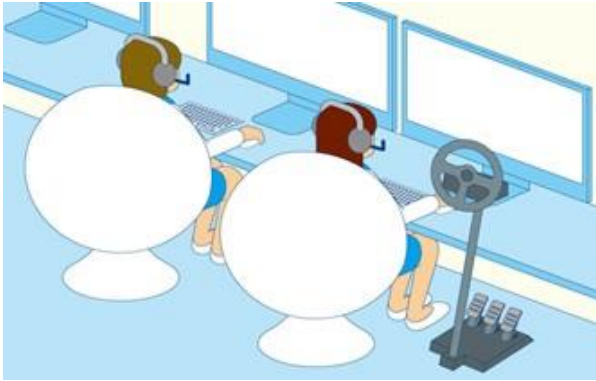
サービスの内容説明とイラストをご覧のうえ、以下の「自動運転」向けのサービスや、実証実験に対する印象について、あてはまる回答を選択してください。



(3) 自動運転向け遠隔監視サポートサービス（以下、見守りサービス）について

自動運転の見守りサービスの印象についてイラストを用いて確認しました。

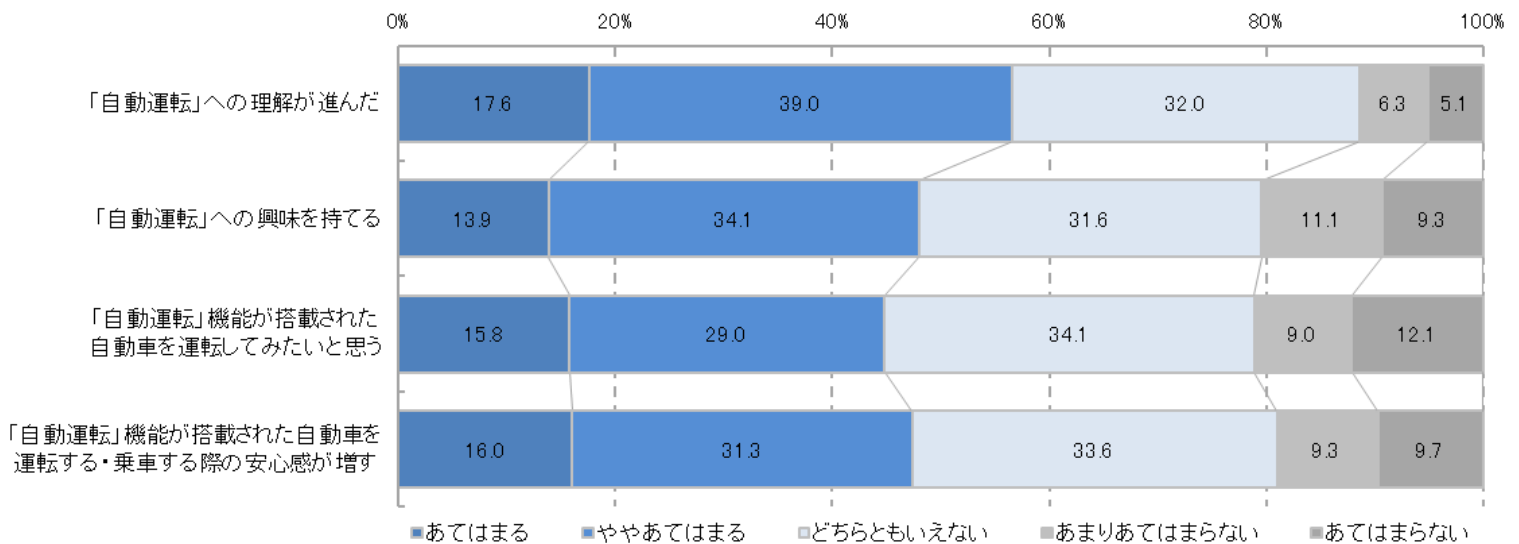
安心感が増すかどうかを確認した結果、「あてはまる（16.0%）」または「ややあてはまる（31.3%）」と回答した人の割合は、「あてはまらない（9.7%）」または「あまりあてはまらない（9.3%）」と回答した方より約2.5倍多く、走行中の見守りサービスが自動運転の安心感を高めることが分かりました。



（見守りサービスの内容）

走行中の自動運転車両が安全に走行しているかを遠隔監視センターから24時間365日体制で見守る。状況に応じて、能動的に乗客や自動運転運行業者をサポートし、事故の防止・軽減を行うサービス。

サービスの内容説明とイラストをご覧のうえ、以下の「自動運転」向けのサービスや、実証実験に対する印象について、あてはまる回答を選択してください。



(4) 自動運転向けトラブル時サポートサービスの受容性

見守りサービス提供中にトラブルが起きた場合のレッカーによる車両搬送や、タクシーで移動継続を支援するサポートサービスについて、イラストを用いて受けた印象を確認しました。

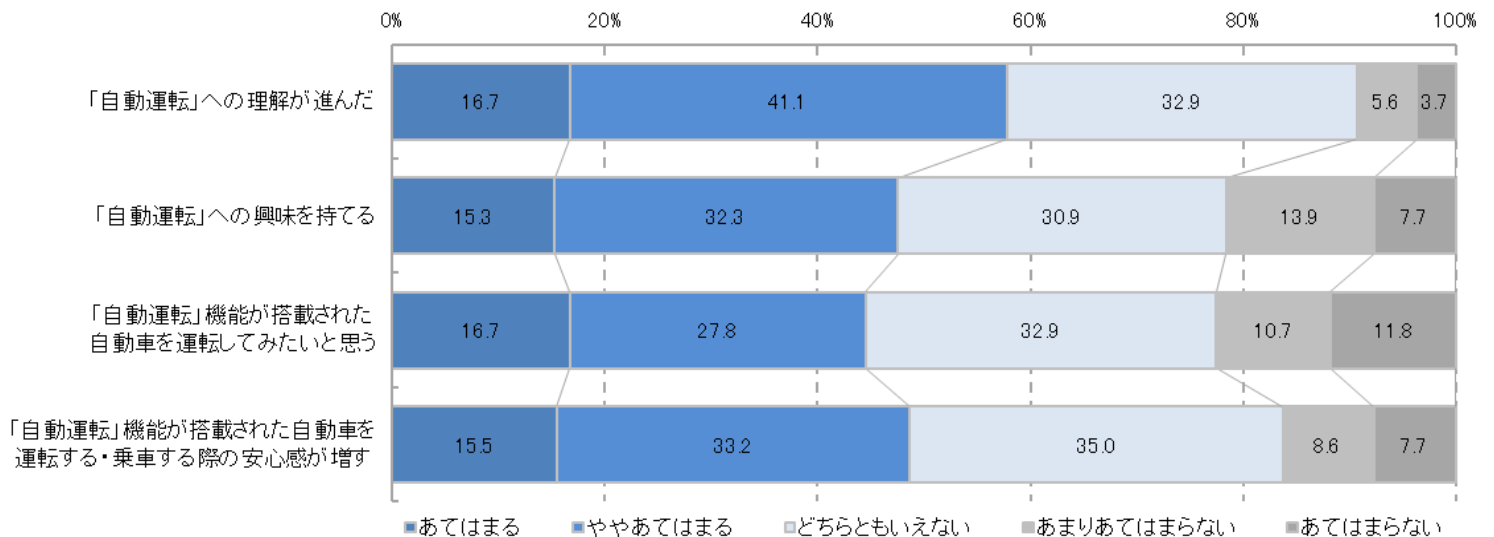
(3) の調査結果と比較し、安心感が増すかどうか確認したところ、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合が1.4%増加し、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答した人の割合はおよそ2.7%減少したことから、トラブル発生時の対応まで示すことで、より安心感が高まることが分かりました。



(トラブル時サポートサービスの内容)

自動運転走行中に事故やトラブルが発生した場合に、コールセンターからレッカー・タクシー・現場駆けつけ(警察・消防・警備員)の手配を迅速に行い、乗客や自動運転運業者をサポートするサービス。

サービスの内容説明とイラストをご覧のうえ、以下の「自動運転」向けのサービスや、実証実験に対する印象について、あてはまる回答を選択してください。



(5) 未来の「自動運转向け保険」の受容性

自動運転特有のリスクを補償し、事故の際は車載器から取得する走行データを活用してスムーズに保険金が支払われる未来の自動運转向け保険のイメージを、イラストを用いて確認しました。

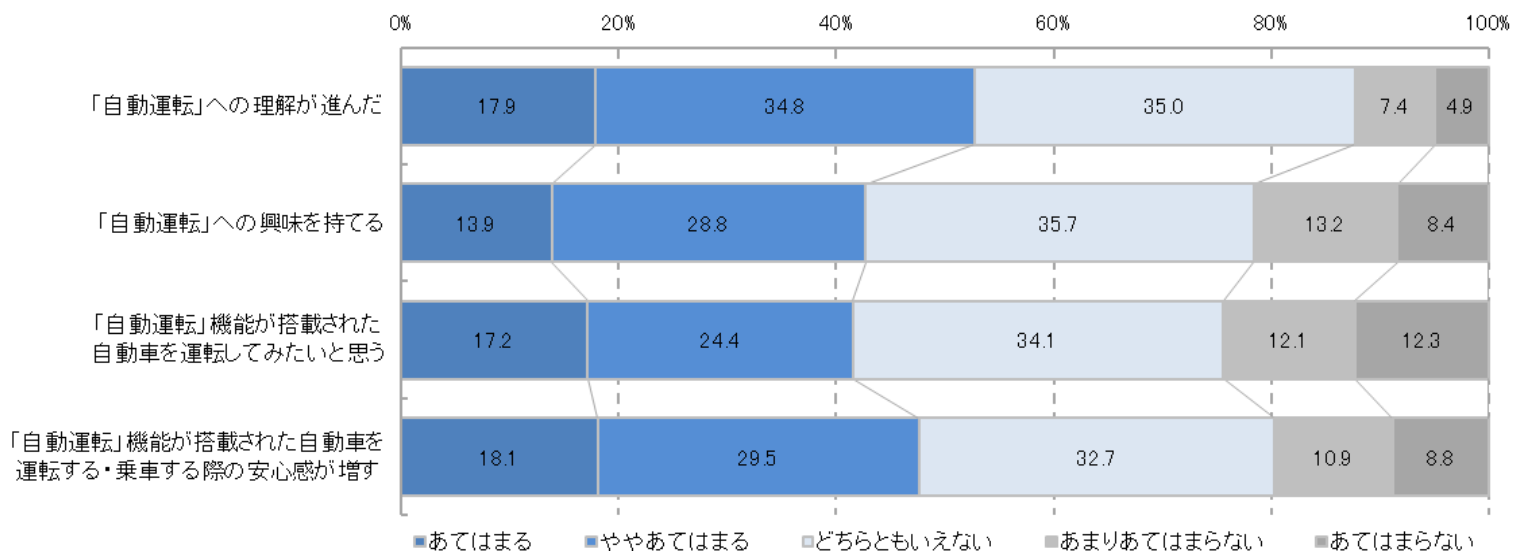
自動運转向け保険の印象として安心感が増すかどうかを確認した結果、「あてはまる (18.1%)」または「ややあてはまる (29.5.%)」と回答した人の割合は、「あてはまらない (8.8%)」または「あまりあてはまらない (10.9%)」のおよそ 2.4 倍となり、自動運転特有のリスクに備える補償やスムーズな保険金のお支払いが、安心感につながるということが分かりました。



(「自動運転車向け保険」の内容)

自動運転特有のリスクを補償し、走行データから事故の状況が即時に保険会社へ連携されるため、事故発生時に車両に備え付けられたカメラの映像を保険会社に提供したり、事故の相手方と面倒な交渉をしなくても、スムーズに保険金が支払われる。

サービスの内容説明とイラストをご覧のうえ、以下の「自動運転」向けのサービスや、実証実験に対する印象について、あてはまる回答を選択してください。



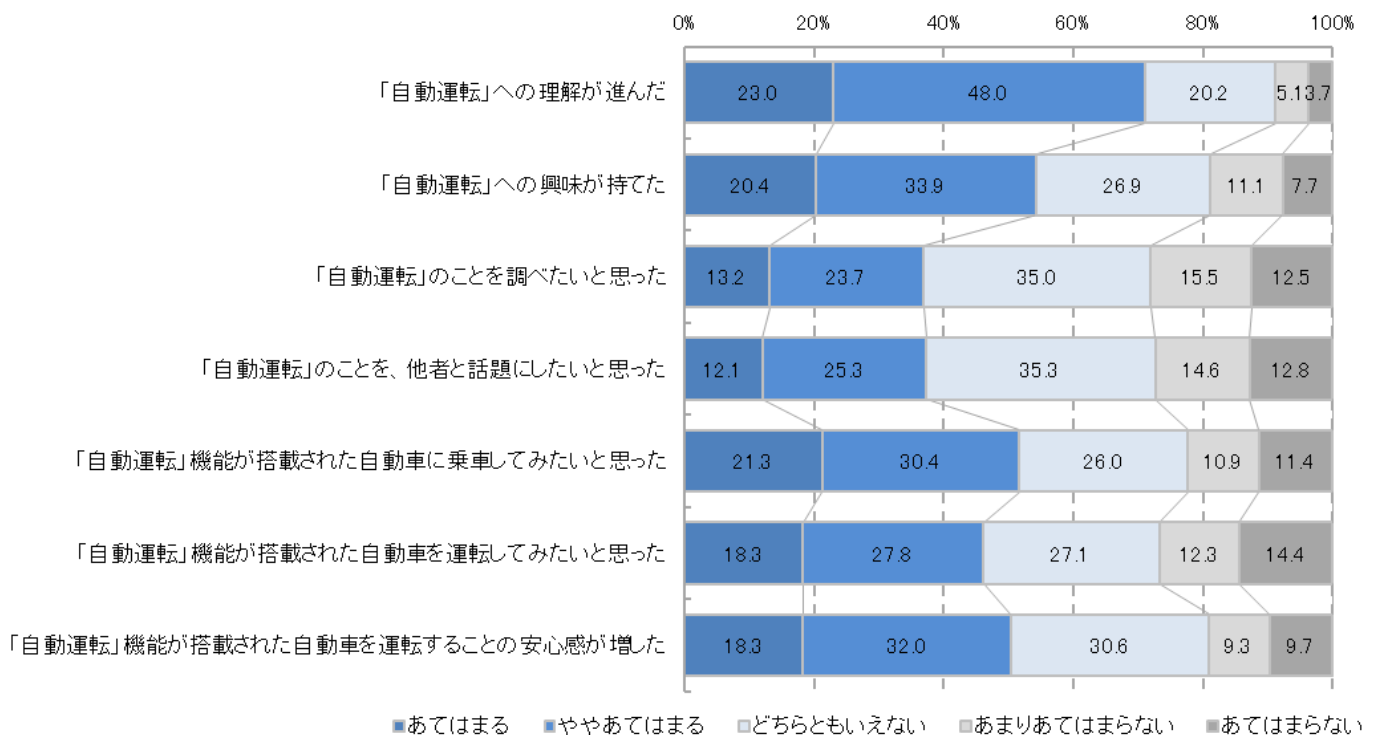
(6) 見守りサービスおよびトラブルサポートサービスのデモ動画※<sup>4</sup> 視聴後の印象

自動運転の見守りやトラブル時のサポートに関するサービスの動画を視聴いただき、受けた印象を確認しました。動画を視聴していただくことで、より自動運転や各種サービスに対する理解が深まり、自動運転車に乗るイメージや、安心感の醸成に役立つことが分かりました。



動画 URL : <https://www.youtube.com/watch?v=T4h524x-8Pw>

動画をご覧のうえ、以下の「自動運転」機能が搭載された自動車への印象についての問いに、あてはまる回答を選択してください。



#### 4. 今後について

調査の結果、当社が自動運転領域で提供する、リスクアセスメントや遠隔監視サポート（見守り）などを提供する安心・安全に資するサービス「Level IV Discovery」が、自動運転の受容性向上に寄与することが確認できました。

損保ジャパンは自動運転の実用化を目指し、ユーザーの意見や要望を確認しながら、パートナー企業と共に研究開発を推進し、安心・安全な自動運转向けサービスの構築を目指していきます。

以上

##### ※1. インシュアテックソリューション「Level IV Discovery」

安心・安全に自動運転実証実験を実施するために、主に以下のソリューションをパッケージ提供しています。

- ・ 走行前：リスクアセスメント
- ・ 走行中：見守り・トラブル対応
- ・ 事故後：自動運転専用保険

##### ※2. 知の拠点あいち重点研究プロジェクト（近未来自動車技術開発プロジェクト）

「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」とは、オープンイノベーションにより、大学等の研究シーズを活用して、県内主要産業が有する横断的な課題を解決し、新技術の開発・実用化、新たなサービスの提供、そして、次世代産業の創出を目指す産学行政連携の研究開発プロジェクトであり、公益財団法人科学技術交流財団が、愛知県からの委託により実施しているものです。損保ジャパンは、そのなかで「近未来自動車技術開発プロジェクト」の研究テーマである「日本初の自動運転モビリティによるサービス実用化に向けた技術研究開発」に参加しています。（研究リーダー：名古屋大学 二宮 芳樹 特任教授、事業化リーダー：アイサンテクノロジー株式会社 佐藤 直人 取締役）。

知の拠点あいち重点研究プロジェクト HP：<http://www.astf-kha.jp/project/>

##### ※3. パートナー企業・大学

- ・ 国立大学法人東海国立大学機構（機構長：松尾 清一）
- ・ アイサンテクノロジー株式会社（代表取締役社長：加藤 淳）
- ・ 株式会社ティアフォー（代表取締役：武田 一哉）
- ・ KDDI 株式会社（代表取締役社長：高橋 誠）
- ・ 岡谷鋼機株式会社（取締役社長：岡谷 篤一）
- ・ 株式会社建設技術研究所（代表取締役社長：中村 哲己）
- ・ 株式会社スリード（代表取締役：佐藤 直人）

##### ※4. 自動運転走行見守りと、トラブル時サポートデモ動画

損保ジャパンとプライムアシスタンスが本プロジェクトの一環として2020年2月26日に愛・地球博記念公園「モリコロパーク（愛知県長久手市）」で実施した、自動運転車の走行中に発生したトラブルに対応する見守りサポートのデモンストレーションの様子を収めた動画です。

動画 URL：<https://www.youtube.com/watch?v=T4h524x-8Pw>